



大阪市立 春日出小学校

所在地 〒554-0022 大阪市此花区春日出中1-13-23

電話番号 06-6461-2606



校長名 杉本 善幸

春日出小学校

検索



学校概要

春日出小学校は、創立65年目を迎え、学校教育目標を「人間尊重の精神と態度を養い、実践力のある心豊かな子どもを育てる」として、校訓である「つながり、もちまえ、よろこび」を実感できる教育活動に励んでいます。

今年度も「学力向上」と「生活指導」を両輪にして、実践力と豊かな心の育成に努めています。学力向上面では、校内の研究教科を国語科に設定し、対話を通じた協働的な学びを実践し、学び合い、高め合う集団の育成を目指して取り組んでいます。

生活指導面では、「相手が嫌だと感じることはしない」、「その日のモヤモヤはその日のうちに解決できるようにする」を合言葉に、教職員一同で力を合わせて取り組んでいます。令和7年度当初の不登校児童割合は1%未満となっており、安全安心な学校実現へ向けて継続的に取り組んでいます。

標準服



運営に関する計画 中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、「国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、「毎日、同じぐらいの時刻にねて、同じぐらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を84.9%以上にする。

全国学力・学習状況調査

※令和6年度の平均正答率

国語	算数
69	66

※調査結果の正答率数値は、学力を測る一つの物差しではありますが、単年度結果であるこの数字をもって、現在の本校総体としての「学力」を示すものではありませんのでご注意ください。

【結果の概要及び成果と課題】

国語、算数のいずれの教科についても平均正答率が、全国、大阪市のそれを上回った。算数科においては、大阪市平均と比べて4ポイント、全国平均と比べて2.6ポイント上回った。中でも「数と計算」についての平均正答率が73.5%となり、計算などの基礎基本が身につけていることがわかる。しかし、昨年度と同様「図形」については全国平均、大阪市平均を下回っており、課題であることが分かる。国語科においては、大阪市平均と比べて3ポイント、全国平均と比べて2.3ポイント上回った。「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」の領域において全国平均、大阪市平均を大きく上回ることから、知識・技能の力はついてきているといえる。しかし、「書くこと」の領域について、全国平均を7.1ポイント下回っていることから、昨年度と同様、書くことについて課題があることが分かった。

【国語】基礎知識の蓄積のため、読書習慣を身につける工夫や視写の取り組みを行ってきた。また、朝の学習の内容を全学年で統一し、基礎基本の問題だけでなく、書く学習にも取り組んできた。その結果、基礎・知識の定着はしてきたことが結果からもわかる。しかし、「書くこと」については、課題が見られる。基礎知識を活かす力をつけるために、学年ごとに児童の学力の実態を分析したり、教材分析をしていく必要がある。

【算数】学習の初めに、学級全体で問題を確認し、めあてを設定している。見通しをもった後に、1人学習の時間を設定し、自分の考えをもって話し合い活動ができるようにしてきた。また、学習の終わりに練習問題に取り組んだり、家庭学習で復習問題の課題を出したりして学習内容の定着を図ってきた。その結果、「図形」以外の領域では、全国平均と大阪市平均を上回った。「図形」の学習では、図形をイメージしたり、実際に動かしたり、作図をしたりする経験が足りないと感じる。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

※令和6年度の調査結果

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
男子	15.3kg	16.8回	30.5cm	38.3回	37.5回	9.99秒	152.2cm	17.9m
女子	16.0kg	16.8回	34.8cm	36.5回	30.5回	9.96秒	145.9cm	13.6m

【結果の概要及び成果と課題】

体力合計点で、男子は全国平均を4.31ポイント下回り、大阪市平均を2.91ポイント下回った。女子は、全国平均を2.4ポイント下回り、大阪市平均を0.95ポイント下回った。「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答においては、男子の「好き」と回答する割合が全国平均・大阪市平均をそれぞれ0.6%、1.9%下回っており、女子の「好き」と回答する割合がそれぞれ9.3%、7.5%下回っている。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子は全国平均・大阪市平均を約7%上回ったが、女子は全国平均・大阪市平均を約4%下回るといった結果だった。測定種目別に見ると、男子は立ち幅跳びで全国平均・大阪市平均を上回っている。しかし、立ち幅跳び以外の種目は、全て全国平均・大阪市平均を下回った。特に、長座体前屈、20mシャトルランで大きく下回っていることがわかる。女子は握力、立ち幅跳び、ソフトボール投げで全国平均・大阪市平均を上回っている。男子と同じく、長座体前屈、20mシャトルランで大きく下回った。この結果から、男女で差はあるが、どちらも「跳ぶ力」は向上していることがわかる。一方で「持久力」「柔軟性」に課題があると考えられる。運動委員会を中心に児童の体力づくりに取り組んだ。体育の学習中だけでなく、休み時間にも児童が外へ出て、楽しく体を動かすことができるように「春日出みんな遊び」を運動委員会が考えて実施している。「春日出みんな遊び」では、休み時間に低学年・中学年・高学年に分かれて「ふえ鬼」を行った。遊びで「ふえ鬼」を選ぶことで、全員の運動量を楽しみながら確保した。また、運動場に新たに、鉄棒の逆上がり補助台や砂山を設置することで、積極的に運動場へ遊びに行く児童が増えている。1月は、「体力づくり月間」とし、1か月間全学年でリズム縄跳び、縄跳びの個人技、持久走、大縄などに取り組んだ。また、同月に2週間「なわとび週間」を実施した。「なわとび週間」では、サザエさんの曲に合わせて、3分間決められた技を跳び続けた。このように、体育の時間や15分休みで「持久力」を鍛える運動を1か月間続けたことによって、児童の「持久力」が向上した。今後も上記のような取り組みを続けていくとともに、教員、運動委員会を中心に、児童の運動時間が増えるような取り組みや、運動能力が向上する運動を授業に取り入れていく必要がある。

学校教育目標

人間尊重の精神と態度を養い、実践力のある
心豊かな子どもを育てる

子どもが安心して成長できる安全な社会の実現に向けた学校運営をします

いじめの早期発見・解消や未然防止に取り組み、
人権に対する正しい認識と実行力を育てます。

- 学期に1回のいじめ未然防止アンケートによる調査と組織的対応
- 学期に1回「いじめについて考える日」を設定し、学校全体で児童の継続指導を進める

インクルーシブ教育システム推進を図り、子ども一人
ひとりのニーズに合った合理的配慮の提供を実施します。

- 体験的な活動を活かした学習
- 個別支援の充実
- 指導力向上に向けた教員研修の推進

道徳教育を推進し、
相手を思いやる気持ちを育みます。

- 主体的・対話的で深い学びの実践
- たてわり班活動による異学年児童との交流を推進

地域と連携して防災・減災教育に取り組み、
生命を大切にす態度や技術を育成します。

- 防災チェックシートや防災マップの活用
- 警察と連携した防犯教室、交通安全教育の実施
- 家庭と連携した防災訓練、引き渡し訓練の実施

PTA・地域の取り組みの企画・運営を支援し、豊かな
人のつながりのある「教育コミュニティ」づくりを推進します。

- 子ども見守り活動を中心とした取り組み
- 学校だよりやホームページによる地域への情報発信と学校公開

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上を図ります

- 研究主題「相手に伝えるように、自分の思いを話す子どもを育てる」に向けた授業実践を推進し、自ら考えるとともに友だちとの意見交流の中らよさを見つけ、表現する力を育成します。

- 効果的なICT機器の活用を図ります。
- デジタル教科書、タブレットPCを活用して、「わかる」「話し合える」授業を展開します。

- 専科指導や朝の学習、英語タイム等を活用して、基礎・基本の学力の定着に取り組みます。
- 体力づくり週間を設定し、体力向上に取り組みます。

- 教員研修を充実させ、子ども一人ひとりの課題に応じた支援の工夫やスモールステップなどの指導法を工夫していきます。